



キーパーソンとその役割

- 三河淡水魚(株) 前代表取締役社長 現会長 創業者 柴崎義輝氏**
 うなぎ卸売業を創業し、生産者第1に考え生産者に寄り添った事業展開の中で、後継者問題や、経営上の問題で廃業する養殖業者に対して、施設の買い上げや養殖場の人員を直接雇用するなど、三河一色産うなぎの生産量維持に努める。また品質向上のため日清丸紅飼料(株)とともにオリジナル飼料「三河鰻味」を開発する。さらに蒲焼工場開設、飲食店開設を決断する。
- 三河淡水魚(株) 代表取締役社長 柴崎忠義氏**
 うなぎ蒲焼工場の必要性を説き、グループ会社の三河水産加工(株)設立に際し先頭に立って活動。設立後は顧客獲得に奔走し、三河一色産うなぎの知名度向上に努める。また、飲食部門「みかわ三水亭」開設の際の中心的な役割を果たす。
- 三河淡水魚(株) 取締役 柴崎百合子氏**
 飲食部門「みかわ三水亭」開設に関わり、開設後は総支配人として実務の責任者。「みかわ三水亭はなれ」、「みかわ三水亭西尾東店」を開設し、来客数の拡大と三河一色産うなぎの知名度向上に貢献。

注目すべき特徴及び効果

- 西尾市一色町を「愛知三河一色うなぎ」の産地として再構築し、全国で積極的に取引されるほどのブランドに向上させたこと
- 高品質飼料の開発・販売に取り組み、三河一色産うなぎの品質向上に努めていること
- これまで地域になかった加工施設、うなぎ専門店を開設し、地域の食産業、食文化創造に努めていること
- 地元小学校の地場産業の学習として職場見学、職場体験に全面協力していること

今後の展開

- 「うなぎ」を地域の重要なコンテンツ(観光など)に成長させ、水産資源を守りながら地域経済の発展に貢献。



審査委員の評価 ウナギでの素晴らしい取り組みであり、この取組がなければウナギが食べられなくなったのではないかと感じられ、引き続き頑張ってもらいたい。